

事務事業名	理科実験・天体学習指導事業				担当	教育委員会	科学教育センター	科学教育センター
政策名	1	「人づくり」～豊かなこころアップ!～			<input type="checkbox"/> 総重 (総合計画重点事業) <input type="checkbox"/> 総新 (総合計画新規事業) <input type="checkbox"/> 戦拡 (総合戦略拡充事業) <input type="checkbox"/> 戦新 (総合戦略新規事業)			
施策名	1	確かな学力の育成						
関連個別計画					事業期間	<input type="checkbox"/> 単年度のみ <input type="checkbox"/> 毎年度実施 (開始年度 平成5 年度～)		
法令根拠	真岡市科学教育センターの設置、管理及び使用条例					<input type="checkbox"/> 期間限定複数年度 ( 年度～ 年度)		
予算科目	1. 一般会計	10. 教育費	04. 社会教育費	10. 科学教育センター費				
事業概要	<p>・科学教育センターは実験室3室、プラネタリウム、各種実験器具を備え、市内の小学3年から中学3年までの全員に、学校教育の一環として理科の観察実験、天体の学習指導を集中的に実施する施設である。また、一人に一組の実験器具を備え、各学校教員が直接、児童生徒の学習指導(授業)をしている。</p> <p>・科学教育センターでの学習は学習指導要領に基づいて、午前中の約3時間、観察実験学習が連続2時間、天体学習が1時間の内容で実施している。</p> <p>・児童生徒に対する学習指導は、各学校の学級担任または理科担当教員が行い、センター指導主事が指導助言している。</p> <p>・小学校(3年以上)、中学校の年間利用回数は年間各学年2回、センター利用学習の際には、各学校からセンターまでバスまたはタクシーで送迎する。</p> <p>・児童生徒のセンター学習についての感想文やお知らせを掲載した学習広報紙「育てよう科学する心」を定期刊行している。</p> <p>・学習指導法研修は、学校のセンター利用の際、児童生徒に対する学校教員の学習指導が円滑に進み、また個々の教員による指導内容に差異が生じないよう、おおむね学校利用日の2週間前に実験室の設備・機器、プラネタリウムを利用して実施する指導方法の研修である。</p>							

1. 現状把握の部 (1) 事務事業の目的と指標

① 手段 (主な活動)		④ 活動指標 (事務事業の活動量を表す指標) の推移							
<p>2年度実績</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>新型コロナウイルス感染拡大防止のため、市内小中学校センター利用学習は全て中止。</li> <li>市内小中学校への理科学習支援(教材配布・物品貸出・授業支援・理科室整備・理科学習指導資料集の作成)を実施。</li> <li>【当初の予定】</li> <li>市内小学校3年生から中学校3年生までの全児童生徒が、年2回入所し1日3時間(観察実験2時間、天体学習1時間)利用する。</li> <li>学習指導法研修は、利用学習で実際に指導する教員を対象に実施する。利用日の約2週間前に実験室及びプラネタリウムで実践的な研修を行う。</li> <li>3年度計画</li> <li>市内小学校理科担当者を対象に1教員年2回以上の理科担当者研修を実施する。</li> <li>市内小中学校教員を対象に年間10回理科実技研修会を実施する。</li> <li>理科学習指導に関する内容で、学校や教員の要望に応じた研修を実施する。</li> <li>理科学習指導資料集の更新と利用促進を図る。</li> </ul>		名称	単位	29 年度(実績)	30 年度(実績)	31 年度(実績)	2 年度(実績)	3 年度(見込)	
		ア	学習に利用した児童生徒数(延べ)	人	10555	10626	10362	-	-
		イ	学習に利用した日数	日	139	137	139	-	-
		ウ	学習に利用した時間数	時間	417	411	417	-	-
		エ	学習指導法研修実施回数	回	37	33	38	-	-
オ	学習指導法研修参加者	人	362	357	273	-	-		
② 対象 (誰、何を対象にしているのか) *人や自然資源等		⑤ 対象指標 (対象の大きさを表す指標) の推移							
<p>【実験観察学習・天体学習】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>市内小学校3年生から中学校3年生までの全児童生徒</li> <li>【指導法研修】</li> <li>市内小中学校で理科を担当する教員</li> </ul>		名称	単位	29 年度(実績)	30 年度(実績)	31 年度(実績)	2 年度(実績)	3 年度(見込)	
		ア	市内小学3年～中学3年までの児童生徒数	人	5420	5385	5267	5209	5179
		イ	小学校理科担当教員数	人	113	109	110	88	84
		ウ	中学校理科担当教員数	人	34	36	36	24	24
		エ							
オ									
③ 意図 (この事業によって、対象をどう変えるのか)		⑥ 成果指標 (対象における意図された対象の程度) の推移							
<p>市内小中学校教員の理科学習に関する資質向上を図り、真岡市内小中学校児童生徒の理科の学力を上げる。</p>		名称	単位	29 年度(実績)	30 年度(実績)	31 年度(実績)	2 年度(実績)	3 年度(見込)	
		ア	学習内容を理解したと答えた小学生の割合	%	98	97	98	-	-
		イ	学習内容を理解したと答えた中学生の割合	%	97	97	85	-	-
		ウ	学習のねらいが達成できたと答えた小学校教員の割合	%	100	100	100	-	-
		エ	学習のねらいが達成できたと答えた中学校教員の割合	%	100	100	100	-	-
オ	特に力をつけたい学習内容の正答率	%	-	-	-	-	90		
(2) 総事業費の推移		単位	29 年度(実績)	30 年度(実績)	31 年度(実績)	2 年度(実績)	3 年度(見込)		
投入量	事業費	国庫支出金	千円	0	0	0	0	0	
		県支出金	千円	0	0	0	0	0	
		地方債	千円	0	0	0	0	0	
		その他	千円	0	0	0	0	0	
		一般財源	千円	12,157	11,533	11,623	2,897	2,628	
	事業費計(A)	千円	12,157	11,533	11,623	2,897	2,628		

2. 1次評価の部 \*原則は事後評価、ただし複数年度事業は途中評価

目的妥当性評価	①政策体系との整合性 市の政策体系に結び付き、社会環境や住民ニーズ等を考慮した上で目的は妥当か？	<input type="checkbox"/> 見直し余地はない <input type="checkbox"/> 見直し余地がある (評価理由) 真岡市内小中学校児童生徒の理科における確かな学力を育成するために実施している。
	②公共関与の妥当性 市が事業に関与する必要があるか？	<input type="checkbox"/> 見直し余地はない <input type="checkbox"/> 見直し余地がある (評価理由) 真岡市内小中学校の児童生徒の学力を育成することは市の義務である。
	③対象と意図の妥当性 ・1枚目の②「対象」③「意図」は適切か？ ・対象を限定・追加する必要があるか？ ・意図を限定・追加する必要があるか？	<input type="checkbox"/> 対象・意図を見直す必要はない <input type="checkbox"/> 対象を見直す必要がある <input type="checkbox"/> 意図を見直す必要がある (評価理由) 市内小中学校の児童生徒に確かな学力を身につけさせるためには、市内の小中学校教員の資質向上を図り、普段の授業の質を向上させる必要がある。
有効性評価	④成果の向上余地 ・成果を向上させる余地はあるかどうか？ない場合の理由は適切か？ ・成果の現状水準とあるべき水準の差異はないか？ ・何が原因で成果向上が期待できないのか？	<input type="checkbox"/> 向上余地はない <input type="checkbox"/> 向上余地がある (評価理由) 本事業は、これまで児童生徒の確かな学力の育成及び教員の資質向上をねらいとし、成果を上げてきた。しかし、学習指導要領改訂により、特に小学校の内容について、より専門性が必要とされており、本事業で取り上げている限定的な学習内容だけでなく、より多くの学習内容、幅広い知識や技能を身につけさせたい。また、児童生徒に確かな学力を身につけさせるために、年に2回のセンター利用学習より、より多い学習機会がある学校での理科学習の質を向上させたい。経験年数、担任としての経歴によって教員の理科学習に対する実態には個人差があるので、教員についてもできるだけ個別にきめ細かい指導を行う必要がある。
	⑤類似事業との統廃合・連携の可能性 ・類似事業はないか、統合や連携はできないか？	<input type="checkbox"/> 類似事業と統合・連携ができる(類似の事務事業名: ) <input type="checkbox"/> 類似事業と統合・連携できない(類似の事務事業名: ) <input type="checkbox"/> 類似事業はない (評価理由)
効率性評価	⑥事業費の削減余地 ・成果を下げずに実施主体の見直しによりコスト削減をできないか？ ・実施方法の適正化によりコスト削減をできないか？	<input type="checkbox"/> 削減余地がない <input type="checkbox"/> 削減余地がある (評価理由) 事業内容変更により、児童送迎用のバス代および白衣クリーニング代等を削減した。

3. 改革・改善方向の部

(1) 改革の方向性(改革案・実行計画) <input type="checkbox"/> 廃止 <input type="checkbox"/> 見直し( <input type="checkbox"/> :目的妥当性 <input type="checkbox"/> :有効性 <input type="checkbox"/> :効率性 <input type="checkbox"/> :公平性 ) <input type="checkbox"/> 統合 <input type="checkbox"/> 継続	(3) 改革・改善による期待成果 <table border="1"> <tr> <td></td> <td></td> <th colspan="3">コスト</th> </tr> <tr> <td></td> <td></td> <th>削減</th> <th>維持</th> <th>増加</th> </tr> <tr> <th rowspan="3">成果</th> <th>向上</th> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <th>維持</th> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <th>低下</th> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </table>			コスト					削減	維持	増加	成果	向上				維持				低下			
			コスト																					
		削減	維持	増加																				
成果	向上																							
	維持																							
	低下																							
(2) 課題、課題の克服の方向性 ・市内小学校理科担当者を対象に理科担当者研修を実施し、学校での教員一人一人の力に応じた個別研修、学校の理科学習環境の整備を行う。 ・市内小中学校教員を対象に年間10回理科実技研修会を実施し、教員の理科実験観察における技能を向上させる。 ・理科学習指導に関する内容で、学校や教員の実態や要望に応じた研修を行う。																								

4. 事務事業の2次評価結果(事業の総括と事業の方向性)

(1) 1次評価結果の客観性と出来具合 <input type="checkbox"/> 記述説明不足(説明責任不充分) <input type="checkbox"/> 評価内容が客観性を欠く <input type="checkbox"/> 評価内容は客観的と言える	(5) 改革・改善による期待成果 <table border="1"> <tr> <td></td> <td></td> <th colspan="3">コスト</th> </tr> <tr> <td></td> <td></td> <th>削減</th> <th>維持</th> <th>増加</th> </tr> <tr> <th rowspan="3">成果</th> <th>向上</th> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <th>維持</th> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <th>低下</th> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </table>			コスト					削減	維持	増加	成果	向上				維持				低下			
			コスト																					
			削減	維持	増加																			
成果	向上																							
	維持																							
	低下																							
(2) 2次評価者としての評価結果 ①目的妥当性 <input type="checkbox"/> 適切 <input type="checkbox"/> 見直し余地あり ②有効性 <input type="checkbox"/> 適切 <input type="checkbox"/> 見直し余地あり ③効率性 <input type="checkbox"/> 適切 <input type="checkbox"/> 見直し余地あり ④公平性 <input type="checkbox"/> 適切 <input type="checkbox"/> 見直し余地あり																								
(3) 2次評価者として判断した今後の事業の方向性 <input type="checkbox"/> 廃止 <input type="checkbox"/> 休止 <input type="checkbox"/> 目的絞込み <input type="checkbox"/> 目的拡充 <input type="checkbox"/> 事業統廃合 <input type="checkbox"/> 事業のやり方改善 <input type="checkbox"/> 予算削減 <input type="checkbox"/> 予算増大 <input type="checkbox"/> 現状維持(従来通りで特に改革改善をしない)	(4) その他2次評価会議で指摘された事項																							